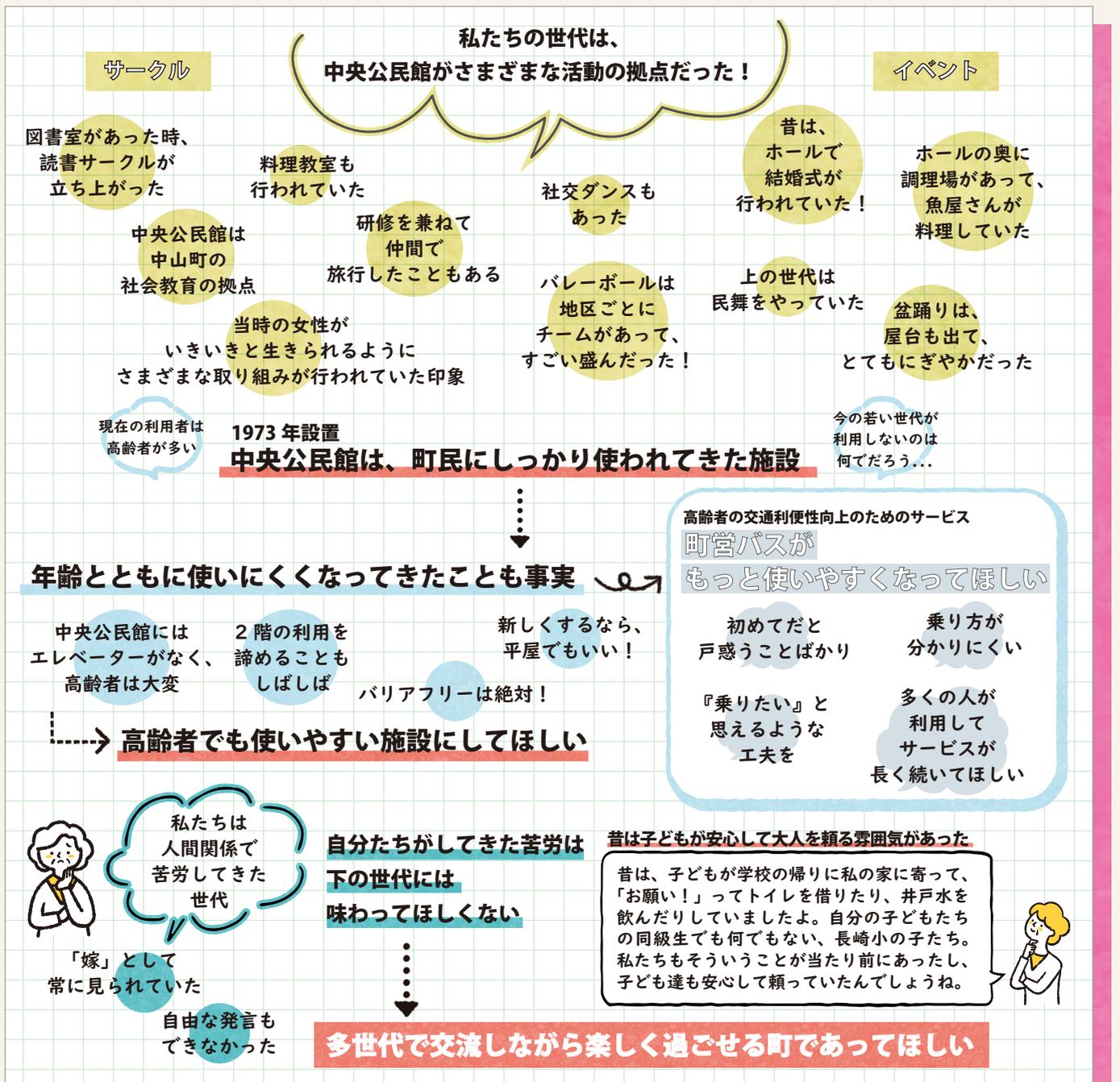


皆さんの「声」を聞かせてください！

女性団体連絡協議会の皆さんの話

今回は、毎年2月に開催される「女性まつり」を主催されている女性団体連絡協議会の方々にお話を伺いました。町の中にお店がたくさんあり、さまざまなイベントがにぎやかに行われていた時代を知っている方々のお話はとてもパワフルで、町内でのネットワークも施設の存在を活かして、楽しみながら築いてきた経験があることを興味深く聞くことができました。



1 私たちの世代は、中央公民館が活動拠点だった！

集まった方々は、中央公民館が完成した 1973 年に 20 代を過ぎている方々がほとんどで、ライフステージが変化していく中で、中央公民館がその時々の活動拠点になって、盛んに利用されていたことが分かりました。「若妻会」や「読書サークル」で集まったり、大ホールで結婚式を挙げたり、陶芸教室が開催されたり。さまざまな思い出がよみがえってきたようで、大いに盛り上がりました！「女性がいきいきと生きら

れるような、さまざまな取り組みが行われていた」と振り返る方もいて、町外から新たに引越してきた方々にとっては心強い存在だったようです。

集まった皆さんは現在も中央公民館をよく使うようですが、「エレベーターがないので、2 階に上がるのが大変」「高齢者にとっては使いにくい施設」という話もあり、バリアフリー化を望む意見も出ました。

2 町営バスをもっと使いやすく

町内の隅々を循環して運行されている町営バスは、どの区間から乗っても 100 円（一般料金／子どもは 50 円）で利用でき、自由に乗り降りできるフリーストップ区間も設けられている便利な公共交通です。バス停では、到着を待つ高齢者同士の井戸端会議の様子がみられたり、運転スタッフによる乗降時の補助もあるようで、高齢福祉の一助にもなっていると捉えることが

できます。しかしながら、「目的地まで時間がかかる」「利用方法が分からず、初めての時はかなり戸惑った」という声も聞かれました。自力での車の運転から公共交通利用へと移行したい高齢世代だからこそ、「もっと『乗りたい』」と思えるように工夫して、多くの人ができる状況にしてほしい」という意見が出されました。

3 多世代が楽しく過ごせるように

現在の暮らしについて、「程よい人間関係があって暮らしやすい」とし、かつては「上の世代に縛られていて苦労した」というお話がありました。そういう経験があるからこそ、「若い世代の人たちには、嫌な思いをしてほしくない」という気持ちがあるとのことでした。他の世代との交流に対しても、「機会があれば、自分たち

の世代が知っていることやできることを共有していきたい」という意欲をお持ちのようでした。一方で、「今の中央公民館は高齢の世代の利用が中心で、若い世代はほとんど見かけない」ということで、多世代が施設を利用しながら、もっとにぎやかに交流できることを望んでいるようでした。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第 6 次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

©中山町「第 6 次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総務広報課防災安全対策室（中山町大字長崎 120 番地／電話：023-662-4899）

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2025 年 3 月発行〉